



## 英国総選挙2010: 主要紙の支持政党

英国の新聞は、党派色がはっきりしているのが特徴の一つ。高級紙だと、デイリー・テレグラフとタイムズが保守系で、インディペンデントとガーディアンが左派系、FTはビジネス界の利益代表、といった色分けが一般に可能である。

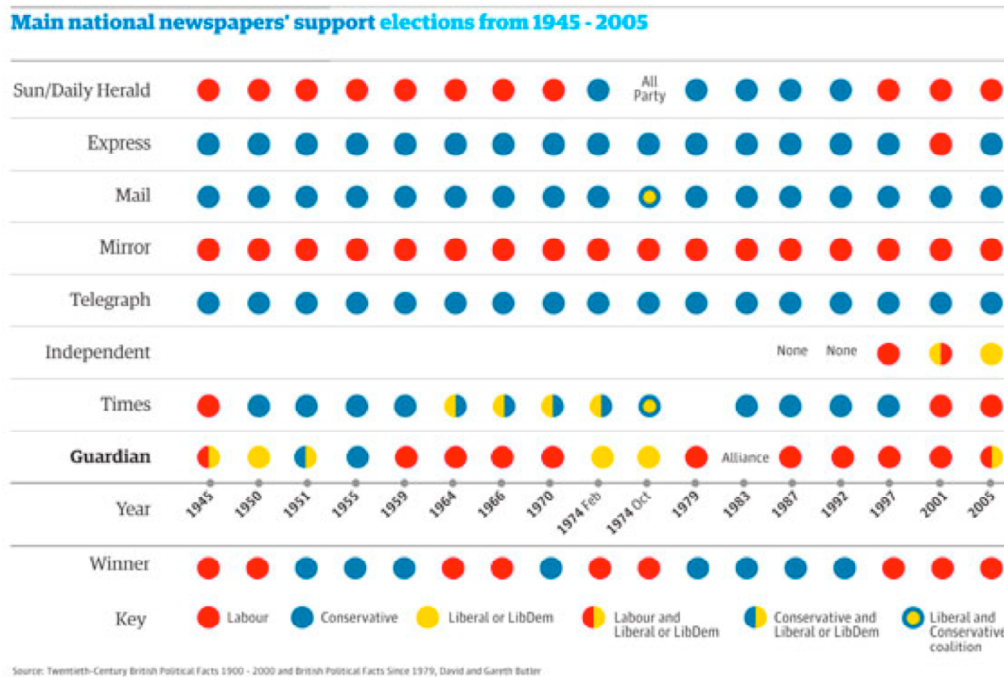
但し、それが常にそのまま政党支持に反映されるかというと、必ずしもそうとは限らない。下のチャートは4日付ガーディアン紙に掲載されたチャートで、1945年から前回2005年の総選挙までの、主要紙の支持政党を示している。赤＝労働党、青＝保守党、黄＝自民党で、色が半分ずつになっているのは2党の戦術投票を読者に呼びかけている場合を表す。デイリー・テレグラフ(保守)、デイリー・メール(保守)やデイリー・ミラー(労働)のように支持政党が固定している新聞もある一方、最近ではニューレーバーの隆盛に合わせて勝ち馬に乗り換えたサンやタイムズ(共にルパート・マードックのニュース社が親会社)のように、「日和見的な」新聞もある。また、左派系のインディペンデントとガーディアンはケース・バイ・ケースで労働党と自民党の間でスイッチ、または両党への戦術投票呼びかけをしてきている。

今回の総選挙では、まず昨年10月の党大会シーズンに、いち早く大衆紙のサンが労働党から保守党への乗り換えを発表。その後、この一週間内にタイムズとFTが保守党へ、ガーディアンが自民党へと乗り換えた。さらに雑誌のエコノミストも直近号で労働党から保守党への乗り換えを宣言した。この結果、今回の選挙で労働党支持に留まったのは、大衆紙のデイリー・ミラーのみということになった。

但し、ニューメディアの隆盛におされて新聞全体が読者数をかなり減らしているし、かつて(たとえば92年のキノック率いる労働党に対するサンの徹底攻撃)のような影響はないとの見方が一般的である。とくに今回は初の試みの党首テレビ討論が選挙戦の流れを大きく変える役割を果たし、新聞はせいぜいその流れを増幅させただけと言われている。

参考までに、英国の新聞の発行部数とインターネット・サイトのビジター数のデータを次頁に挙げる。データは2010年3月のもの。ちなみに、党首テレビ討論の視聴者数は、概数で第1回(ITV放映)が1,000万人、第2回(Sky放映)が400万人、第3回(BBC放映)が800万人。英国の有権者数は約4,500万人である。

図: 主要紙の支持政党の推移



出所) <http://www.guardian.co.uk/news/datablog/2010/may/04/general-election-newspaper-support>

週日紙	発行部数 (千部)	対前年 同月比	日曜紙	発行部数 (千部)	対前年 同月比	サイト	1日平均ビジ ター数(千人)
デイリー・テレグラフ	687	-10%	サンデー・テレグラフ	510	-12%	Telegraph.co.uk	1,557
タイムズ	502	-16%	サンデー・タイムズ	1,112	-10%	Timesonline.co.uk(*)	1,220
フィナンシャル・タイムズ	401	-6%	-	-	-		
ガーディアン	283	-17%	オブザーバー	331	-23%	Guardian.co.uk	1,852
インディペンデント	184	-10%	インディペンデント・オン・サンデー	154	-8%	Independent.co.uk	446
デイリー・ミラー	1,247	-7%	サンデー・ミラー	1,147	-7%	Mirror Group Digital	468
デイリー・スター	827	1%	デイリー・スター・サンデー	342	-6%		
サン	3,005	-2%	ニュース・オブ・ザ・ワールド	2,905	-4%	SunOnline.co.uk(*)	1,390
デイリー・エクスプレス	668	-8%	サンデー・エクスプレス	570	-10%		
デイリー・メール	2,082	-3%	メール・オン・サンデー	1,953	-2%	Mail Online	2,247
-	-	-	ピープル	532	-8%		

注) TimesonlineとSunOnlineのビジター数は2月のデータ。  
出所) abcデータを元にKRA作成

井上 貴子(問合せ: [tinoue@komatsuresearch.com](mailto:tinoue@komatsuresearch.com))